

世界中の誰もが知っている、 行ってみたいくなる、 そして住みたいくなるまち「出雲」をめざして

2月20日、出雲市議会定例会が開会し、長岡市長が平成30年度の施政方針を表明しました。その主な内容を紹介します。

I. 所信

私は、昨年4月の市長選挙において引き続き3期目の市政を担わせていただくことになりました。持続可能で安定的な財政運営を推進するとともに、中海・宍道湖・大山圏域市長会をはじめとする近隣自治体間や官民での連携を更に強化し、山陰の経済、文化をリードする元気な地方都市の実現に向け邁進してまいります。

新年度は、「日本遺産」に認定された「日が沈む聖地出雲」、「日本ジオパーク」に認定された「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」及び国立公園満喫プロジェクトを本格的に展開していきます。

来たる2020年に向けて「世界中の誰もが知っている、行ってみたいくなる、そして住みたいくなるまち「出雲」」をめざし、本市の持つ魅力を最大限に

発信するとともに、第1次産業から第2次、3次産業までの総力を結集し、魅力的なまちづくりを進めます。

II. 市政運営のポイント

全国的に人口減少が進む中、本市の人口は、合併時の規模を保っている一方で、生産年齢人口(15〜64歳)の減少や、中山間地域における急激な高齢化と人口減少の進展など、多くの課題も抱えています。

これらの課題解決に向けて一歩踏み出し、更に新たな発展に向けてシフトチェンジしていくため、本市の強みである多様性・総合力を発揮するとともに、特に次の3つを重点に市政運営を進めます。

一、「若者が定着する出雲」

本市では、生産年齢人口が年々減少傾向にある中、景気の回復基調を背景に有効求人倍率が極めて高い水準となるなど労働力不足の解消が喫緊の課題となっています。未来を担う若い世代が出雲で働き、定住の地として選んで

いただけるよう、さまざまな分野の雇用の創出に合わせ、キャリア教育の推進やUIターンの促進など、地元帰りの流れを促す環境づくりを進めるとともに、定住支援を強化します。

また、地域での子育て支援については、人と人、人と地域のつながりによる子育て支援や、将来の本市を担う人材の育成にも取り組みます。

二、「住み慣れた地域で安心して暮らせる出雲」

本市の人口は、増加が続いている地域がある一方で、山間部や海岸部は減少傾向にあり、集落機能や農地・森林の保全管理機能の維持などが課題となっています。地域を支える産業の振興を支援するとともに、地域の絆を強め、市内のどこに住んでも支え合いながら、安心して暮らせるまちづくりを応援します。

また、増加が続いている外国人住民と地域の方々との交流や相互理解を一層進め、新たなまちづくりの担い手となっていたらけるよう、多文化共生社会の実現に向けた取組を強化します。

三、「魅力にあふれ多くの人が訪れる出雲」

活気あふれる出雲を実現するために一層の交流人口の拡大に努め、新たな人の流れをつくり出し、出雲のファンを増やしていくことが肝要です。

本年3月から就航するFDAの静岡便、4月からの仙台便により、出雲縁結び空港の年間利用者数は、100万人に達しようとしています。

また、鳥取、出雲を結ぶ新たな観光列車「あめつち」の運行、更には西日本初となるトキの一般公開に向けた取組などは、交流人口拡大の大きなチャンスであります。

一方、国内だけではなく、国が成長戦略の柱とする訪日外国人を4千万人とする施策にも呼応し、外国人観光客にも興味・関心を持っていただけるような特徴ある情報発信をさまざまな機会を捉えて行ってまいります。

以下、「出雲未来図」に掲げる4つの戦略プロジェクトに沿って、主要施策・主要事業を説明します。



Ⅲ 主要施策・主要事業

1. 雇用創出2,500人プロジェクト

(1) 商工業

○地元企業への支援

- ・出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議の意見を踏まえた取組

○人材確保対策

- ・県外進学者にアプローチする企業を後押しするなど取組を強化
- ・産業情報サイトを通じ、出雲で働く魅力を発信
- ・次世代を担う子どもたちに、出雲の産業の魅力や地元企業を知ってもらうための機会を創出

○IT産業の振興

- ・ものづくり高度技術者やIT技術者等人材育成への支援
- ・異業種交流や商談会等のビジネスチャンスの提供

○産学官の連携機会の創出

- ・医療・介護分野における、新商品やサービスの開発のためのマッチングを支援

○中小企業等の事業承継の円滑化や創業の促進

- ・相談体制の強化、セミナーやビジネスプランコンテストの開催

○販路開拓

- ・関東圏の大手スーパー等における「出雲フェア」をきっかけとした市内産品の新たな販路開拓を支援

○商店街の再生・活性化

- ・空き店舗を活用した開業支援
- ・中心商店街等の賑わい創出を支援

○企業誘致

- ・新たな工業団地の適地を選定し、整備計画を検討
- ・製造業及びソフト系産業の新設・増設を支援

○新エネルギーの推進

- ・「神話の國出雲さんさん倶楽部クレジット」を活用し、森林再生等を推進

(2) 農林水産業

○農政の転換等への対応

- ・需要に応じた米生産に向け、生産者組織・団体の取組を支援
- ・地域農業再生協議会を中心に、米以外の作物による高収益化をめざし、売れるものづくりを推進
- ・農業3F事業、ひかわ元気農業支援事業を見直し、「出雲農業未来の懸け橋事業」を創設

○新出雲農業チャレンジ事業をリニューアル

- ・中山間地域の農業支援
- ・地域の課題解決に向けた提案による事業展開、新品目の生産等を支援
- ・情報通信技術の活用やGAP認証取得等に向けた取組を推進

○担い手対策

- ・農地中間管理事業等を活用し、農地集積を促進

○新規就農者支援

- ・就業初期の負担軽減
- ・アグリビジネススクールでの実践研修

○特産の振興

- ・果樹リース団地整備の検討

○畜産業の振興

- ・ブランド化や有利販売を支援
- ・野菜集荷施設及びリーフレタス栽培施設の整備を支援

○畜産業の振興

- ・飼養技術の向上、コスト削減、品質向上等経営体質の強化

○農業基盤整備

- ・宍道湖西岸地区における国営緊急農地再編整備事業の推進

○林業の振興・森林の適正管理

- ・作業道整備や利用間伐、松枯れ対策事業等
- ・林地台帳整備による森林施業の集約化
- ・市内産木材の生産拡大
- ・後継者確保に向け、林業事業体の育成、就労環境整備を支援
- ・森林環境譲与税(仮称)の活用を検討

○野生鳥獣の被害対策

- ・防護ネットや電気牧柵等の設置助成
- ・シカ、イノシシのジビエの利活用に向けた施設整備の支援

○水産業の振興

- ・品質向上やブランド化、後継者育成、資源回復等を支援
- ・長寿命化計画に基づき、市管理漁港の保全事業に着手

2. 定住人口キープ17万人プロジェクト

○定住促進

- ・出雲大好き！ターン女性支援事業、移住・定住促進住まいづくり助成事業を見直し、「出雲で住まいる(スマイル)事業」として、若い世代、子育て世代の移住を促進
- ・Uターンフェア等県外相談会に参加し、就労先確保に向け、関係機関との連携を強化



しまねUターン！ターンフェア in東京での相談の様子

○空き家対策

- ・空き家実態アンケートを踏まえ、適切な管理や民間での流通、活用を促進
- ・空き家バンクへの登録を促す助成事業を新設
- ・危険空家は、特定空家の指定等を視野に入れながら対策を推進

○未婚化・晩婚化対策

- ・「島根はっぴいこーでいねーたー」との連携を強化
- ・婚活支援セミナーやイベントの開催
- ・「いずも縁結び女子navi」により、婚活をサポート

- 縁結び等をテーマにしたシテイセールス
- ・出雲市応援メッセージの動画の配信
- ・ホームページ「いずもな暮らし」の充実
- ・「出雲」ナンバー導入に向けた取組
- コミュニティ活動の推進
- ・「元氣！やる気！地域応援補助制度」を活用しての地域活性化
- ・自治会加入促進の取組を支援
- ・地域おこし協力隊を増員し、「うみやま（中山間地域）応援センター」の体制を強化

- 多文化共生の推進
- ・地域での交流を支援するなど多文化共生推進プランに基づく取組を推進

○国際交流

- ・姉妹都市であるサンタクララ市、カラヨキ市等との民間交流活動を支援
- ふるさと応援寄附、企業版ふるさと寄附の活用
- ・寄附者の思いに込められるような工夫を凝らした積極的な取組を推進

3. 交流人口1,200万人プロジェクト

○魅力的な観光メニューの開発支援

- ・市内での宿泊につながる観光メニューの開発に向け、民間事業者等と連携

○国立公園満喫プロジェクト

- ・日御碕観光案内所等受入体制を整備

○食による情報発信

- ・出雲食戦略会議を中心とした、そば、ぜんざいなどの食の魅力をもPR

○外国人観光客の誘致

- ・フランスをはじめとする欧米、台湾、香港等を主なターゲットとし、PR動画の配信など「IZUMO」の魅力を発信

- ・フランス人インバウンドスタッフを配置
- ・外国人プロガー等の招へい
- ・山陰インバウンド機構等と連携したプロモーション活動



○新たな人の流れの活用

- ・FDAの静岡便、仙台便の新規就航を契機とした、東海、東北地域に向けたPR
- ・JRグループによる新たな観光列車「あめつち」の運行を契機とした出雲の魅力の全国発信

○観光施設の活用

- ・旧大社駅を活用したイベントや保存修理に向けた建造物調査を実施
- ・民間活力による吉兆館のリニューアルオープン

○文化財の保護・活用

- ・鰐淵寺境内の釈迦堂の改修
- ・田儀櫻井家たたら製鉄遺跡の保存整備
- ・国史跡に指定された「出雲国山陰道跡」の発掘調査

○公共交通ネットワーク

- ・バス交通のダイヤ・路線等見直し
- ・一畑電車沿線地域対策協議会を通じた設備の改良・維持への補助

- ・出雲縁結び空港の機能強化、新規就航路線等利用促進
- ・山陰新幹線、中国横断新幹線の導入について基本計画から整備計画へ格上げとなるよう関係団体と連携
- ・山陰道出雲湖陵道路と湖陵多伎道路の事業促進



- ・境港出雲道路、県管理国道、県道の整備促進
- ・都市計画道路の整備促進
- ・幹線市道や生活道路、下水路の整備
- ・道路橋や道路トンネル等の長寿命化

4. 住みやすさNo.1プロジェクト

(1) 安全・安心

○安全・安心のまちづくり

- ・浸水想定ハザードマップを改訂し全戸配布
- ・土砂災害特別警戒区域の制度や助成事業の対象地域への周知
- ・避難所の環境整備
- ・原子力防災対策について、周辺自治体の意見が反映されるよう、国へは法整備、中国電力へは立地自治体と同様な安全協定の締結を要請

- ・広域避難計画にかかる国・県の連携強化
- ・高齢者の運転免許自主返納を支援
- ・夜光反射材着用品を推進
- ・大社消防署庁舎整備、はしご車更新
- ・消防コミュニティセンターの整備
- ・斐伊川本川堤防や宍道湖西岸堤防の強化を国に要請
- ・新内藤川、赤川等の県管理河川の早期改修を県に要請

○子育て支援

- ・認可保育所・認定こども園の定員枠拡大、保育士の確保・定着化、施設の拡充支援等、待機児童解消
- ・幼稚園での一時預かり事業を新たに4園で開始
- ・児童クラブは、市設置クラブの拡張整備、社会福祉法人等の参入による受入枠拡大等、児童の受入体制を充実
- ・県立大学出雲キャンパス内に子育て支援センターを開設
- ・スマートフォンを利用した子育て支援アプリの導入
- ・子ども家庭総合支援拠点の開設に向け、体制づくりを推進
- ・子ども発達支援の推進

○健康づくり・福祉の充実

- ・自死対策計画の策定
- ・母子健康包括支援センター「さずな」による相談等サポート体制の強化
- ・「出雲市手話の普及の推進に関する条例」に基づく手話の普及
- ・認知症グループホームの増床など介護サービスを整備
- ・老老介護世帯への生活支援の拡充
- ・要介護者等の自立支援及び重度化防止に向けた地域ケア会議の開催

- ・介護予防活動に取り組む住民の集いの場への支援
- ・県が財政運営の責任主体となる国民健康保険制度の安定化

○総合医療センター

- ・早期の在宅復帰支援と予防医療の充実
- ・新公立病院改革プランに基づく経営の効率化

○市民の利便性向上

- ・マイナンバーカードによるコンビニ交付のサービスに戸籍謄抄本等を追加
- ・期日前投票所の市内ショッピングセンター内開設に向けた取組

(2)人材育成

○教育行政の推進

- ・教員の授業力向上や「ふるさと・キャリア」教育を充実
- ・小学校における外国語教育の拡充
- ・ICT活用教育の推進、WiFi環境の整備
- ・日本語指導が必要な児童生徒への支援の強化



塩冶小学校での日本語指導の様子

- ・特別支援教育にかかる心理相談員や不登校対策にかかる教育支援セン

- ・ター指導員の増員
- ・教職員の多忙化解消を推進
- ・部活動指導員を配置

- ・乙立と朝山小学校、塩津と北浜小学校及び檜山と東小学校の統合に向けた準備
- ・平田地域西部の4地区5小学校の統合は継続して協議

- ・国富小学校及び西田小学校の校舎・屋内運動場、高松幼稚園園舎の耐震化対策
- ・檜山と東小学校の統合による新設小学校や第三中学校の整備

- ・日本語指導の環境改善や教室不足解消のため、塩冶小学校校舎の増築
- ・中学校普通教室のエアコン整備
- ・小学校普通教室のエアコン整備設計

- ・新斐川学校給食センター敷地造成工事、建築・設備の実施設計に着手
- ・科学館の有効活用
- ・県立大学出雲キャンパスに「看護栄養学部」が新設されることによる地域の活性化

- ・工科系高等教育機関の将来的な立地を検討
- 市民協働によるまちづくり
- ・市と市民が共有する課題の解決に向けて、市民発の特色ある取組を支援

- 男女共同参画の推進
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進、働き方改革に向けた取組、若年層へのDV防止の啓発

- 子ども・若者の育成、支援
- ・青少年育成市民会議や子ども・若者支援センター等の連携により、子ども・若者の自立・活躍を支援

○芸術文化・スポーツの振興

- ・出雲総合芸術文化祭の開催、出雲芸術アカデミー等による芸術文化の振興
- ・スポーツ推進計画に基づく施策の実施
- ・出雲駅伝の開催
- ・なでしこリーグ参入をめざす「ディオッサ出雲F.C.」の支援

- ・東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致の推進
- ・新体育館建設場所の決定、基本計画の策定、整備手法の検討
- ・平田スポーツ公園の改修
- ・市内図書館の有効活用

○人権・同和教育

- ・出雲市人権施策推進基本方針に基づく同和問題をはじめとする人権問題解決のための教育、啓発

(3)環境

○環境のまちづくり

- ・トキの一般公開に向けた観察施設の整備、トキによるまちづくりの推進



- ・斐伊川水系における大型水鳥類の生息環境づくり、地域経済の活性化につながる取組を検討

- ・次期可燃ごみ処理施設の建設及び運

- ・営業業者の決定。敷地造成工事、市道の改良・新設工事に着手

○上水道・下水道

- ・向山配水池の再構築、新向山配水系基幹管路の整備、老朽管の更新
- ・水道料金等審議会の意見を踏まえた料金の見直し
- ・県内水道事業体の広域連携の検討
- ・下水道施設の計画的な更新、長寿命化の推進
- ・下水道事業の公営企業化への移行準備

IV. 結び

・新年度は、平成の時代を締めくくる節目の年です。

・本市にとって平成と名のつく出来事でもまず思い起こされるものは、地方分権の推進を目的とした「平成の大合併」であることは言うまでもありません。明治の合併、昭和の合併を経て、それぞれが独自の歴史を刻みながら発展を続けてきた7つの市町が大同団結し、新出雲市として新たな一歩を踏み出しました。

・そして60年ぶりに行われた出雲大社の「平成の大遷宮」。これを契機に出雲の名をとどろかせることとなりました。

・今、本市は更なる発展に向け、着実にその歩みを進めております。平成から次の時代へ変わろうとするこのときこそ、新たな挑戦への始まりと捉え、更に力強く成長する道筋を皆様とともに描き、市民の総力を結集すべく「同心協力」の精神をもって、市政運営に全力を尽くすことを誓い、新年度の施政方針とします。